

1 安心して住み続けられるまちづくりの推進

現状・課題

○急速な人口減少が進み、これまで一定の人口集積により支えられてきた医療や商業等の生活サービスの提供や持続可能な都市経営が、困難になることが想定されています。都市全体の構造を見直し、人口減少に対応したまちづくりを行う必要があります。

○人口が減少し空き家が増加しています。空き家の適正な管理、定住・移住の促進、多様な居住スタイルに対応した住み替えの促進など、魅力ある住環境の確保とともに、大規模災害に備えた防災対策等の推進・強化が求められています。

施策 1 コンパクトシティの推進



施策の方向

誰もが安心して住み続けられる魅力あふれるまちを実現するため、「呉市立地適正化計画」に基づき商業・医療・福祉施設や住宅など、市民の暮らしを支える都市機能と居住機能の誘導等により、一定の人口密度を維持し、地域に必要な生活サービス施設や地域コミュニティの確保を図ります。

また、Society5.0が目指す未来のまちの姿を先行的に具現化し、歩いて暮らすことができるまちなか居住を誘導するコンパクトシティ形成の核として、呉駅周辺地域総合開発を推進しコンパクトで持続可能なまちを目指します。

主な取組

(1) 立地適正化計画による誘導施策の推進

都市計画制度を活用した容積率緩和措置等の土地の高度利用化、中心市街地における低未利用土地の活用の検討など

(2) 呉駅周辺地域総合開発の推進

そごう跡地の開発・駅前広場の改良、アーバンデザインセンターの設立、JR呉駅の橋上駅舎の推進、JR呉駅を中心とした周辺開発の誘導など

2 質の高い住環境の推進



施策の方向

木造住宅の耐震化や危険建物の除去などを促進するとともに、アーバンデザインセンターの活用による市民、企業、教育・研究機関等と連携したまちづくりを推進します。

また、空き家の利活用や住宅取得の支援などを推進し、定住・移住の促進につなげるとともに、緊急輸送道路や避難路の沿道にある建築物の耐震化など大規模災害に備えた防災対策の推進などにより、誰もが安心して暮らすことができる質の高い住環境の整備を推進します。

主な取組

(1) 良質な住宅ストックの形成

木造住宅の耐震診断や耐震改修への助成、危険建物の除去に対する助成など

(2) 公・民・学の連携によるまちづくりの推進

市民参加による継続的なまちづくりを行うアーバンデザインセンターの設立

(3) 魅力ある住環境の確保

空き家バンク等による空き家の利活用の促進、市営住宅の適切な維持管理、定住・移住希望者の住宅取得支援など

(4) 防災まちづくりの推進

地震により倒壊した場合、広域緊急輸送道路※を塞ぐ恐れのある建築物の耐震改修工事や除去に対する助成など

指標

項目	現状		目標	
居住誘導区域内の人口密度	R元	66.3人/ha	R7	現状維持
コンパクトシティ形成の核となる総合交通拠点の整備	R元	0施設	R7	1施設

※ 広域緊急輸送道路：緊急輸送道路のうち、「広島県耐震改修促進計画」において指定する、大規模地震時に通行を確保すべき道路

～ アーバンデザインセンターのイメージ例 ～

公・民・学の連携による新たな価値の創造

市役所だけでなく，民間事業者や学術機関，市民などの多様な主体が連携し，社会課題の解決に向けた実証実験や，オープンイノベーションによる共創活動など，まちづくりに向けた新たな試みに積極的に取り組むため，プラットフォーム（土台となる環境）となるアーバンデザインセンターを設立します。

公・民・学の連携のイメージ



【参考事例】次世代モビリティ導入に向けた交通社会実験（呉市）



R元年度 燃料電池バス走行実験



R2年度 自動運転バス走行実験

取組イメージ

多用途に使える魅力的な広場空間の創造 ～ 公共空間の有効活用に向けた社会実験 ～

呉駅周辺の2階デッキ広場や周辺歩道等の公共空間について，歩行者利便増進道路などの新たな制度等を積極的に活用しながら，多用途に使える魅力的な広場空間の創造に向けて，社会実験等を実施します。

柏の葉アーバンデザインセンター
社会実験



事例：UDCK 屋台社会実験

【参考事例】

バスタマーケット



出典：新宿バスタ MARKET facebook
ページ

2 移動しやすい交通環境の形成

現状・課題

- 将来の自動運転社会を見据えた、新たなモビリティサービスの活用により、移動課題の解決や地域の活性化に向けた取組に挑戦していくことが求められています。
- 地域産業や観光の振興など、地域経済の更なる発展のため、広域移動をより促進し、人流を活性化することが必要となっており、広域移動を担う公共交通の利便性や信頼性を高める取組が求められています。
- 人口減少に伴う利用者の減少により公共交通の維持・確保は困難さが増している一方で、高齢化の進展に伴い高齢者等の移動手段の確保の重要性は高まっています。引き続き、利用しやすく持続可能な移動手段を目指して、公共交通の利便性向上の取組が求められています。

施策

1 スマートモビリティの推進



施策の方向

誰もが快適で効率的に移動できる交通環境を実現するため、呉駅周辺地域において次世代型総合交通拠点形成し、これを起点に、次世代モビリティや MaaS など先端技術の先駆的実装を進め、交通まちづくりとスマートモビリティの推進を図ります。

主な取組

- (1) 呉駅周辺地域総合交通拠点整備の推進

施策

2 広域移動を担う公共交通の機能強化



施策の方向

市内と市外等との広域移動を担う公共交通を安定的・快適に利用できる環境を提供するため、公共交通事業者と連携して、鉄道の安全性・信頼性の向上や高速バス路線の利便性向上等の機能強化を促進します。

主な取組

- (1) JR 呉線の機能強化の促進
JR 呉線の強靱化による信頼性の向上、接続ダイヤ改善による利便性の向上など
- (2) 高速バス等の利便性の向上
クリアライン線、呉広島空港線などの都市間等を結ぶ高速バス路線のより利用しやすいダイヤ編成やサービス改善など

施策の方向

全ての地域において、持続可能な地域旅客運送サービスの提供を確保するため、公共交通事業者等と連携して、先端技術等の活用を図るとともに、地域の実情に応じた公共交通サービスの見直しや自家用有償旅客運送導入の検討など地域の輸送資源を有効に活用する取組を進めます。

主な取組

(1) 持続可能な地域旅客運送サービスの提供の確保

バス路線の運行の効率化，ニーズに応じた効率的な移動サービスの推進による生活交通路線・生活航路の維持など

(2) 公共交通の利便性の向上

バス乗換拠点の整備，MaaS など ICT の活用による交通結節機能の強化，バリアフリー化の推進など JR 呉線沿線の機能強化による人流の活性化と駅周辺のにぎわいの創出など

指標

項目	現状		目標	
公共交通利用者数（路線バス，生活交通・航路，鉄道）	R元	1,742万人	R7	1,638万人*
生活バスのバリアフリー化率	R元	47.0%	R7	70.0%以上

* 人口減少の範囲内における利用者の減少は，現状維持とみなします。

3

道路の整備

現状・課題

- 経済・社会のグローバル化が進む中、地域経済の活性化や交流人口の拡大等に寄与するとともに、近年激化している異常気象と自然災害に備えるため、高速道路ネットワークの機能強化を図る必要があります。
- 近隣市町との連携を強化し、物流の効率化と交流人口の拡大等による地域経済の持続的発展と災害に強く住みやすいまちづくりを実現するため、放射環状型の道路網の整備や通学路における交通安全対策の推進などが求められています。
- 市道は、地形的な特性から狭い箇所が多く、消防・救急活動などに支障を来す箇所もあるため、拡幅などの道路整備が必要となっています。また、災害発生時にも迅速・適切な初動対応を可能とするため、緊急輸送道路等の機能強化、橋りょう等の予防保全による老朽化対策を行う必要があります。

施策

1

高速道路ネットワークの整備



施策の方向

地域産業の持続的な発展に寄与し、災害に強く、安全性・信頼性が高い高速道路ネットワークを構築するため、広島呉道路の4車線化や東広島・呉自動車道の機能強化等の促進を図ります。

主な取組

- (1) 広島呉道路（クエアライン）4車線化
- (2) 東広島・呉自動車道の整備促進
阿賀ICの立体化及びワイヤロープ設置など



施策の方向

人流・物流を支え、災害に強い道路ネットワークを構築するとともに、幹線道路における交通事故の減少と安全を確保するため、放射環状型道路網を形成する国道・県道の整備促進や総合的な交通安全対策の推進を図ります。

主な取組

- (1) 人流・物流を支える道路ネットワークの整備
都市計画道路焼山押込線の早期整備など
- (2) 災害に強い道路ネットワークの整備
主要地方道呉平谷線(上二河～此原)の早期整備, 一般国道 185 号(広～川尻バイパス)の早期事業化など
- (3) 総合的な交通安全対策の推進
通学路交通安全プログラムに基づく通学路の歩道整備など



施策の方向

生活環境の改善, 通行の安全や避難路を確保するため, 生活道路の計画的な整備を実施するとともに, 災害発生時も安全・確実に活用できるよう, 緊急輸送道路等の機能強化や橋りょう等の老朽化対策を実施します。

主な取組

- (1) 生活環境を改善し, 安全を確保するための道路整備
- (2) 緊急輸送道路等の機能強化
緊急輸送道路等の橋りょうや跨道橋, 跨線橋の耐震補強など
- (3) 適切な維持管理と予防保全による老朽化対策

指標

項目	現状		目標	
呉市内の主要渋滞箇所における年間渋滞損失時間	R元	約 231 万時間	R7	約 142 万時間
老朽化した橋りょうの整備箇所 (累計)	R元	39 橋	R7	171 橋
緊急輸送道路, 重要物流道路※における橋りょうの耐震化完成箇所 (累計)	R元	0 橋	R7	27 橋

※ 重要物流道路: 平時・災害時を問わない安定的な輸送を確保するため, 国土交通大臣が物流上重要な道路輸送網を指定した路線

4 河川、砂防・急傾斜、高潮・津波対策の推進

現状・課題

- 災害時でも人命の保護が最大限図られ、社会の重要な機能が致命的な障害を受けずに維持される強靱な都市基盤を備えた安全で安心なまちを実現する必要があります。
- 平成30年7月豪雨の際には、多くの河川が氾濫し、大規模な浸水によって甚大な被害が発生しました。河川の拡幅による流下能力の向上など災害時の安全性を高める取組が必要です。
- 呉市は、地質的・地形的に雨に脆弱な特性から、過去の豪雨では土石流等が発生し多大な被害が生じてきました。市民の安全・安心な生活環境を確保するため、砂防事業などを計画的に実施する必要があります。
- 呉市は長い海岸線を有していることから、護岸・港湾等の海岸施設が多く、施設の老朽化や台風等に伴う高潮や高波、地震等に伴う津波により損傷が生じる恐れのある箇所もあります。浸水被害のリスクを軽減する取組を継続して行う必要があります。

施策

1 河川改修等の推進



施策の方向

大雨災害による溢水の発生・拡大を防止するため、河道断面確保などの機能強化を進めるとともに、リアルタイムで状況を確認できる河川監視カメラの設置、学校での防災教育など情報発信の充実・強化により、市民の安全・安心な生活環境の確保を図ります。

主な取組

- (1) 河川改修事業
- (2) 適切な維持管理
河川管理施設（堤防、水門など）の点検・補修など

- 序論
- 基本構想
- 基本計画
- 第1章
- 第2章
- 第3章
- 前期基本計画

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 都市基盤分野
- 7
- 8

施策 2 砂防・急傾斜対策の推進



施策の方向

豪雨による土石流や急傾斜地の崩壊による災害を未然に防止する取組を進めるとともに、土砂災害警戒区域の指定等に関する情報発信などにより、市民の安全・安心な生活環境の確保を図ります。

主な取組

- (1) 砂防事業
- (2) 急傾斜地崩壊対策事業
- (3) 適切な維持管理
崩壊対策工事を実施した急傾斜地の維持補修

施策 3 高潮・津波対策の推進



施策の方向

台風や地震等による高潮や津波などが発生した時にも生命・財産を守るため、消波ブロックの設置など海岸施設の計画的な整備・改修と適切な維持管理を行います。また、海岸清掃など適切な維持管理を行い、安全で魅力ある海岸づくりを推進します。

主な取組

- (1) 海岸事業（高潮・津波・耐震対策）
海岸保全施設（堤防、^{りくこう}陸閘など）の整備など
- (2) 適切な維持管理
海岸保全施設（堤防、陸閘など）の長寿命化や海岸清掃など

指標

項目	現状		目標	
河川機能強化改修工事実施箇所（累計）	R元	0河川	R7	20河川
急傾斜地崩壊対策工事実施箇所（累計）	R元	745か所	R7	755か所
高潮（津波）防護達成人口率	R元	63.5%	R7	67.0%

現状・課題

- 災害時に、避難場所など防災拠点としての役割を担うため、防災機能を備えた公園の整備が求められています。
- 各公園に設置されている遊具等の施設は経年劣化が進んでおり、安全性を確保するため補修・更新等を行う必要があります。
- まちのにぎわいづくりのための新たな手法として、道路・公園などの公共空間の利活用が注目されています。公共空間の利活用には様々な制限がありますが、地域のにぎわい創出に資する活用に取り組む必要があります。

施策

1 公園の整備



施策の方向

人口密度の高い中央地区の防災拠点や市役所本庁舎と一体となった防災中枢拠点として、中央公園の整備を行います。
また、その他の公園も憩いの空間として、市民が安全・快適に利用できるよう遊具等を始めとする公園施設の維持・更新を行います。

主な取組

- (1) 防災中枢拠点である中央公園の機能強化
- (2) 魅力的で多様な機能を備えた公園整備
レクリエーションの空間と防災機能など多様な機能を有する公園の整備
- (3) 適切な維持管理と計画的な遊具等の更新

施策

2 にぎわい空間の創出



施策の方向

道路・公園等の公共空間の利活用を関係機関と協力して進め、にぎわいの場を創出します。
また、呉ポートピアパークの有効活用について、民間事業者の意見を取り入れ、活用策を調査・検討します。

主な取組

- (1) 公共空間を利活用したにぎわい空間の創出
呉ポートピアパーク、狩留賀海浜公園などの管理・運営

指標

項目	現状		目標	
老朽化した遊具の整備箇所（累計）	R元	50基	R7	200基
路上イベント等の件数（年間）	R元	27件	R7	50件
公園イベント等の件数（年間）	R元	36件	R7	40件

6

港湾機能の充実・魅力向上

現状・課題

- 近年、トラックドライバー不足の深刻化に伴い国内物流を支える海上輸送の役割が注目されています。また、平成30年7月豪雨の際には、道路、鉄道などの機能が停止する中、緊急輸送手段として内航フェリー・RORO船※が活躍するなど、港湾施設は経済活動を支える重要な役割を担っています。しかし、港湾施設の多くが耐用年数を迎えており、災害に強く安定した物流拠点の整備や維持管理などにかかる費用の増加等が懸念されています。
- 港湾には、産業・物流機能だけでなく、親水空間や防災拠点としての機能、更には広域的な交流拠点など多様な活用が期待されています。
- 放置艇は台風襲来時などに陸上へ乗り上げて、被害の拡大や復旧活動の妨げになるなど問題が生じる可能性があります。

施策

1

港湾機能の充実



施策の方向

ストックマネジメントによる港湾施設の長寿命化の推進や物流拠点の整備など呉港の将来構想を検討するとともに、既存施設の適切な維持・管理や定期航路（RORO船など）の誘致など、港湾施設の既存ストックを最大限生かした利便性の高い物流システムの構築を推進します。

主な取組

- (1) 物流拠点の整備
荷さばき地、上屋、起重機などの整備
- (2) 港湾施設の整備
係留施設（岸壁、棧橋など）、防波堤などの整備
- (3) 港湾施設の維持管理

※ RORO船：ROROは、英語のROLL-ON ROLL-OFF（ロールオン・ロールオフ）の略。貨物を積んだトラックやトレーラーをそのまま運べる船。船の前後に出入口があり、トラック等が乗船（ロールオン）・下船（ロールオフ）できるようになっている。



施策の方向

災害発生時において、港湾機能が可能な限り発揮できるよう耐震岸壁を活用した呉港全体の災害体制の構築を進めるとともに、港と市街地が隣接した呉市の特性を生かした海の玄関口として、航路利用者の利便性向上、港湾緑地を活用した交流促進、クルーズ客船の誘致など広域的な交流によるにぎわいの創出など、港湾機能の魅力向上を図ります。

また、災害発生時の放置艇による2次被害を防止するため、放置艇対策を推進します。

主な取組

(1) 港湾機能の活用促進

栈橋ターミナルのバリアフリー整備、港湾緑地の活用など

(2) 安全・安心な環境の確保

呉港BCP訓練、船だまりの整備、既存ストックを活用したプレジャーボートの係留可能場所の確保による放置艇の解消など

(3) 他港との交流・連携

クルーズ客船の誘致など

指標

項目	現状		目標	
老朽化した港湾施設の整備箇所（累計）	R元	3施設	R7	15施設
放置艇解消率	R元	—	R7	100.0%

7

上下水道の整備

現状・課題

- 人口減少や節水意識の高まりなどを要因として水需要が減少し、収入の減少が見込まれます。こうした中、これまで整備した多くの水道施設・下水道施設の老朽化が進行しています。施設を計画的に改築・更新していく必要があります。
- 近年多発している大雨による浸水被害を軽減するための重点的な取組が必要です。

施策

1

安全で安心な水道水の供給

6

安全な水とトイレ
を世界中に



9

産業と技術革新の
基盤をつくろう



13

気候変動に
具体的な対策を



施策の 方向

将来にわたって安全・安心で安定した水道サービスを提供するため、「呉市水道アセットマネジメント計画」をもとに、老朽化の進んだ管路や基幹施設を優先し、効率的かつ計画的に水道施設の改築更新を進めます。

主な 取組

- (1) 管路更新事業
- (2) 水道施設改築更新事業
休山^{すい}隧道配水池更新事業など
- (3) 水道施設等の適切な維持管理

快適な暮らしを支える 下水道の整備



施策の
方向

下水道施設の改築更新に当たっては、ストックマネジメント計画をもとに、事業費の平準化と効率化を図りながら計画的に進めます。

また、雨水による浸水被害が多発している市街地を対象に重点的に排水施設の整備を推進します。

主な
取組

- (1) 管きよ改築更新事業
- (2) 下水道施設改築更新事業
新宮・広浄化センター下水処理設備更新など
- (3) 浸水対策（雨水整備）推進事業
二河川第2ポンプ場（合流施設）の建設など
- (4) 下水道未普及地区整備事業
- (5) 下水道施設等の適切な維持管理

指標

項目	現 状		目 標*1	
管路の耐震化率（上水道）	R元	9.2%	R5	12.7%
管きよの耐震化率（下水道）	R元	30.2%	R5	31.7%
雨水整備計画区域*2のうち、整備が完了した割合	R元	38.3%	R5	41.4%

* 1 目標年度及び数値は、呉市上下水道ビジョンの数値を準用

* 2 雨水整備計画区域は、市街地を中心に雨水による浸水被害の発生を軽減する必要がある区域